

農業の道を未来へ切り拓くために

Agri Road

アグリロードながおか
長岡市担い手育成総合支援協議会（事務局／長岡市農林水産部 農水産政策課）

No.39

2023年9月30日
発行

特集 農業情熱ランナー ～挑戦への道～

「次世代へつなぐ農業」

[information]

稲わら・籾がらを使って、田んぼを元気にしよう！
農楽仕事（のらばいと）をご活用ください！
ビニールハウス等の倒壊に注意！

[農政 VOICE]

活力ある農業・農村を次世代につなぐ

写真提供 中嶋果菜 さん(中之島)

完全復活！

第6回 世界えだまめ早食い選手権 が開催されました！

農業者や地元企業の若者を中心として結成する「ながおか農challeプロジェクト実行委員会（代表:大島 健）」が、長岡市産の枝豆の認知度向上を目的とし、枝豆を早く、美しく食べることを競う選手権が7月16日（日）アオーレ長岡で開催されました。

当日は、全国各地から抽選を勝ち抜いた約200名の枝豆ファンが集い熱戦を繰り広げました。今年度は個人戦、団体戦ともに長岡市出身のチームが優勝を飾り、惜敗を喫した昨年度大会のリベンジを果たしました。

選手権会場の外では、地場野菜の販売や飲食店による枝豆料理の販売で賑わい、特に長岡産の新鮮な枝豆をその場で蒸して提供したJAえちご中越のブースには行列ができました。



稲わら・籾がらを使って、 田んぼを元気にしよう！

稲わら・籾がらは貴重な有機資源です。

稲わら・籾がらは焼却せずに、すき込みや堆肥に利用し、環境にも人にも優しい米づくりに役立てましょう。

- 稲わらは、地力の向上に効果が見込めます。
- 籾がらは、ケイ酸質資材として活用できます。

※秋すき込みは、次のポイントに注意して行いましょう。

秋すき込みのポイント

- 地温の高い10月中に行いましょう。
- 5～10cm程度の「浅うち」にしましょう。

稲わら等の焼却は...

※焼却（野焼き）は一部の例外を除き原則禁止されています。焼却による煙は、車の視界を遮り重大な事故を引き起こしたり、地域住民の健康被害の原因となります。稲わら等は焼却せずに土づくりに活かしましょう。

ビニールハウス等の倒壊に注意！

大雪の際は、ビニールハウス等の倒壊が心配されます。栽培を終えたビニールハウスは、ビニールを外したり、降雪前に点検・補修を行うなど適正な管理を行いましょう。管理が適正でなかった場合は、災害復旧事業の補助対象とならないことがありますのでご注意ください。



累計2,400件ダウンロード!!

農楽仕事（のらばいと）

をご活用ください！

市内の農家と、農作業のアルバイト希望者を繋ぐスマートフォン用のアプリ「農楽仕事（のらばいと）」は、令和5年8月末時点で約6割を超えるマッチング率です。農繁期の人手不足や、数日だけの労働力確保にぜひご活用をご検討ください！

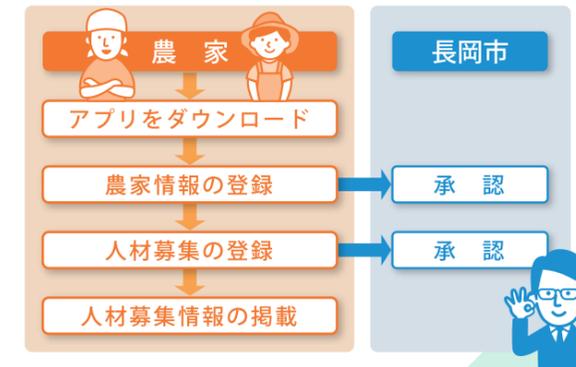
使ってみたいがやり方がわからない、などご不明点がありましたら、農水産政策課担い手育成係へお尋ねください。

長岡市が作った「働く」と「体験」をつなぐアプリ

アプリダウンロードはこちら

農楽仕事（のらばいと）

【ダウンロードから人材募集までの流れ】



農政 VOICE

活力ある農業・農村を次世代につなぐ

長岡市農林水産部長 波形 隆一

この4月に着任してから、4か月以上が過ぎました。I will be back!（帰ってくるぜ!）と言った訳ではないですが、1年ぶりの復帰となりますので、よろしくお願いいたします。

さて、春から夏、そして秋の風に、稲が靡く風景に私は、すごく癒されます。日本書紀(奈良時代)に、我が国は「豊葦原瑞穂国」(稲がみずみずしく出そろふ、美しい国)と書かれています。日本人にとっては、稲穂、米、棚田の風景などは、DNAに刻まれた特別なものと考えてしまいます。

しかし、最近の米づくりをめぐる状況は、生産費の高騰や後継者不足など、課題が多くあります。弥生時代から米づくりが始まったとされておりますが、先人たちは、その時代に応じた生産技術やコンバイン・トラクターなどの機械開発、品種改良などで解決策を生み出し、現在に至っています。その中でも、長岡は、高品質な米生産のきっかけとなるコシヒカリ発祥の地であることは、みなさんご存知だと思います。

長岡発の技術が、米づくりの歴史を変えてきました。

最近では、環境負荷や輸入環境の悪化などを踏まえ、農業や化学肥料の低減、有機肥料などが見直されていますが、米どころとしては、これらによる収量や品質の低下は許されません。そこで、これまでの技術では不可能だったものを可能にすることがイノベーションの原点、成長の源となります。

農業分野でも「想定外」や「異常」の事態が通常化しつつある中で、成長産業として発展していく、また競争や災害にも負けない足腰の強い産業にしていくことが求められます。

市では、スマート農業や農業DXなど、今の時代に即した技術導入を進めています。みなさんと一緒に、先人たちのイノベーション魂に学び、これまでにない技術や新たな発想を形にすることで、活力ある農業・農村を次世代に継承していきましょう。

よろしくお願いいたします。



次世代へ つなぐ農業

昨年、農業の次世代を担う後継者の確保が課題となっています。このようになか、一度は民間企業へ就職するも、家業を継いで酪農家となり、新たな取り組みもスタートさせている和島地域の加勢健吾さん(加勢牧場)にお話を伺いました。



お話を伺った加勢健吾さん(右)、勉さん(左)
飼育数: ガンジー牛17頭
生産したガンジー牛乳を利用し、飲用向の牛乳をはじめ、アイス、ソフトクリーム、洋生菓子、焼菓子などを加工し、直営店を設け販売を行っています。

今年4月に先代のお父様から経営を継承されたとのことですが、継承に至ったきっかけなどを教えてください。

私は、両親が酪農業を営んでいることについては幼少の頃からあまり良いとは思っていませんでした。そのせいか農業とは全く関係のない進学・就職をしました。ただ、実家から通える職場に配属となり、自身の仕事をこなしながらも、両親の仕事ぶりを見るうちに、「自身が本当に良いと思えるものを商品化し、販売をしようとする姿勢が、サラリーマンをスタートしたばかりの私には非常に輝いて見え、両親が打ち込む酪農業という仕事に対する価値観が大きく変わりはじめたのです。サラリーマンになって2年後の24歳のころ、両親に「酪農業を継ぎたい」と相談をしました。

ご相談を受けたお父様の反応はいかがでしたか？

父からは、「継ぎたいければ継いで良い。だけど、今までとは違う取り組みをしないと生き残れない」というアドバイスとともに、あっさり承諾をもらいました。就農してから数年後に、父とその当時の話になった際、「自分の仕事を認めてもらえたみたいで嬉しかった」と照れながら話していたことが印象にあります。

事業を継承された際、メリットと感じたことはありましたか？

既に築かれた経営基盤があることです。その基盤のお陰で「6次産業化」という新しい事業をゼロからスタートを切る際も、「融資を受けやすい」「様々なマスコミに取り上げてもらいやすい」などといったメリットがありました。基礎ができていたから、発展したものがやりやすかったですね。

事業を継承後にどのようなことを始めましたか？

私が一番初めに着手したことは「商品説明」について、分かりやすく、簡潔に、他の商品との違いについての説明をできるように努力したことを覚えています。商品の強み、弱み、商品化に至った経緯など、自分たちがこだわって作っているものの背景が相手に伝わらなければ、商品を手にとっていただけなのです。

先代から守ってきたいもの、今後チャレンジしたいことは何ですか？

顧客の増加、知名度の広がりから、両親が半生を費やしてきた「こもりも品質の良い牛乳を生産する」という取り組みが、ここ最近ようやく認められてきたのではないかと感じています。その信念を維持し続けながら、この牛乳を一人でも多くの人に知って頂くことを目標に、今後の経営に取り組みしていきたいと思っています。今後は地域との連携に重きをおいて活動をしていきたいと考えています。特に「農業と福祉の連携(農福連携)」には強い興味がありますね。

継承を考えている農家さんへメッセージをお願いします。

健吾さん: 農業は、自然が相手になるので理不尽なことも多く、お金を失うことも多かれ少なかれ必ず生じる職業です。なので、それらの覚悟が必要ですが、「それでも...」と強く思うのであれば、これほど面白い業種はないかと思えます。

勉さん: 経営を譲ったら口出しせず、信頼して任せ、見守るのがいいのではないかと感じています。

先代の加勢勉さんが、健吾さんに対し「やりたいと思ったことは、自由にやれば」と応援してくれたことが、自由なやりがいが印象的でした。お忙しい中、ご対応いただき、ありがとうございます。



加勢牧場で飼育しているガンジー牛

「技術習得又は経営移譲に向けた研修支援事業」では、 親元就農も支援対象とします！

雇用主の3親等以内の近親者についても重要な新規就農者と考え、家族的な農業経営からの脱却及び市外に流出した人材の親元回帰を目的とし、今年度から新たに親元就農枠を設けました。

● 助成対象者

長岡市内の
認定農業者
(雇用主側に助成)

● 補助率

給与の50%
(上限100千円/月)
×
最大36カ月

※既存の「技術習得又は経営移譲に向けた研修支援事業」と同様

これから雇用をお考えの方は、ご相談ください。 ※予算の範囲内での対応となります。



10年後の地域の農業を考えましょう!! ~「人・農地プラン」から「地域計画」へ~

長岡市では、令和6年度末までに市内全域で「地域計画」策定に向けて取組を進めていきます。計画策定のためには、地域農業の現状と課題を確認し、将来の農地利用のあり方について考える必要があります。今年度は、長岡地域及び寺泊地域において、来年度は、その他地域において話し合いの場を開催する予定です。具体的な開催日程については、市ホームページ等で周知しますので、担い手の皆様はご参加ください。

託す人も託される人も安心して農地を守っていけるよう、地域の農業のあり方を考えていきましょう！

7月26日、先行して長岡地域の上川西地区で話し合いの場を開催しました。話し合いには、農業委員、JA、長岡地域振興局も参加し、水稻以外の作物の可能性や、経営の効率化など様々な意見が出されました。



スマートアグリ の導入が進んでいます

市内でもスマートアグリ機器を導入する経営体が増加しています。「高い買い物」「使うのが難しい」というのは昔の話で、最近は、値ごろで使いやすい機器も出てきていますので、農作業の省力化、若者や女性の活躍促進のために導入を検討してみてもいかがでしょうか。

市では、使いやすい補助制度(R5年度は終了)やスマートアグリを気軽に体験・相談できる施設を設けていますので、そちらもご活用ください。

体験、相談希望は... スマートアグリ長岡 検索

